

◆6000人の命を救った日本のシンドラー杉原！感動の実話がおペラに！◆

杉原千畝物語

オペラ「人道の桜」

Sempo Sugihara JINDO no SAKURA



作曲 安藤由布樹
 台本 新南田 ゆり
 指揮 飯坂 純
 演出 鳴海 優一
 統括合唱指揮 中橋健太郎左衛門
 合唱指揮 安藤由布樹
 女屋 哲郎
 舞台監督 藤田有紀彦
 照明デザイナー 山森 栄治
 (FILLSEAD)
 監修 渡辺 勝正
 (大正出版/杉原千畝研究会)

スーパーバイザー 鈴木 絃一
 エグゼクティブ・プロデューサー 新南田 ゆり
 総合プロデューサー 松尾 史子
 (東京オペラ・プロデュース)

6000人の命を救った杉原千畝
 助けたユダヤ人の手紙は
 現在取戻しになり、今では世界中から
 千畝に感謝の書が表明されている



(写真提供 NPO杉原千畝命のビザ)

私のしたことは
 外交官としては 間違った
 ことだったのかもしれない。
 しかし私には 頼ってきた
 何千人もの人々を
 見殺しにすることはできな
 かった。大したことをした
 わけではない。
 当然のことをしただけです。

◆お申込み・お問合わせ◆

東京オペラ・プロデュース

(受付時間 13:00~19:00)

TEL 03-3530-5181

FAX 03-3530-5182

〒174-0074東京都板橋区東新町1-7-11-1F

operaproduce@jcom.home.ne.jp

昼 14:00

夜 18:00

杉原千畝	大貫 史朗	女屋 哲郎
杉原幸子	新南田 ゆり	羽山 弘子
大橋忠一	角田 和弘	濱松 孝行
ニシユリ	織部 玲児	羽山 晃生
バルハフティック	土崎 譲	滝川 かをん
はる	正岡美津子	北澤 幸
サラ	勝倉小百合	森 裕美子
ベンジャミン	中村 祐哉	影山 慎二
アンナ	辰巳真理恵	永井 千絵
リンダ売娘	みすぎ 絹江	溝呂木さをり

グッジェ	小林 重昭(昼・夜)	朝日湯の主人	平井 明(昼・夜)
菊池文彦	橋本 昌一(昼・夜)	時計屋	山本 康治(昼・夜)
軍人A	藤井 昌雄(昼・夜)	美恵子	松本 悦子(昼)
軍人B	久保田信行(昼・夜)	サイモン	松本 メイ(夜)
サリ	吉田 翔唯(昼・夜)	アボラ	上村 まりあ(昼・夜)
滝川	山本 康治(昼・夜)	リンダ(ダンサー)	久保田信行(昼・夜)
遠之助	今泉 健志(昼・夜)	早大生・外交官	岩田 彩里(昼・夜)
達江	小林 和子(昼・夜)	早大生・外交官	田中 秀弥(昼・夜)
敏子	野久尾智美(昼・夜)	加藤さん	中澤 和輝(昼・夜)
	清家 洋子(昼・夜)		

演奏:杉原千畝メモリアルオーケストラ

合唱:杉原千畝オペラ合唱団

2017年 3月25日(土) 14:00 開演 完全入れ替え制
 18:00 開演 2回公演 新宿文化センター大ホール

SS席 10,000円 14,000円 売完 / S席 8,000円 / A席 6,000円 / 車椅子スペース 有 (お問い合わせください)

<後援> 早稲田大学 / 駐日 イスラエル大使館 / 駐日 リトアニア共和国大使館 / 新宿区教育委員会
 日本リトアニア友好協会 / NPO 杉原千畝命のビザ / 杉原千畝研究会・大正出版 (他 申請中)
 <協賛> (株)オンワードホールディングス / (株)カインズ / (株)京王エージェンシー / (株)ナガホリ / マーシャルコレクション
 (株)マルハ / ラブラブオーチェ (他 受付中) 主催:杉原千畝物語 オペラ「人道の桜」制作委員会

歴史的史実をそのまま<再現>したオペラ！

2015年5月にリオアニア
国立劇場にて世界初演



<日本語上演 + リオアニア語字幕>での
世界初演(オーケストラ伴奏)は、会場全体が
スタンディングオベーションとなりました！



実際に千歳が喜から撮影した写真

「忘れもしない1940年7月18日の早朝の事であった。6時少し前、表通りに面した領事公館の窓の窓際が、突然人だかりの喧しい話声で騒がしくなり、意味の分からぬわめき声は、人だかりの人数が増えるためか、次第に高く激しくなっていく……私は急ぎカーテンの端の隙間から外を伺った。ところが大部分がヨロヨレの服装をした老若男女で、色々な人相の人が、ざっと100人も公館の鉄欄に寄りかかって、こちらに向かって何かを訴えている光景が目に入った。」 (千歳の手記より)



千歳の発給したビザ



2015年 7月 千歳の母校
早稲田大学大隈記念講堂
<日本初演(ピアノ伴奏)>
2015年 12月 品川きゅりあん公演
<日本初演(オーケストラ伴奏)>

(千歳の手記より)

「私は考え込んでしまった。
元々彼らは私にとって、何のゆかりもない赤の他人に過ぎない。
いっそのことビザ発給拒否を5人の代表だけに宣言し、領事館オフィスのドアを封印し
ホテルにでも引き上げようと思えば、物理的には実行できる。しかも私は本省に対し、従
順であるとして強められこそすれと考えた。
私は考え込んだ。

仮に、本件当事者が私ではなく、他の誰かであったならば、百人が百人<拒否>の無
難な道を選んだに違いない。なぜか？
とくに、果たして、残虐、無責任、我武者羅の職業軍
人集団の、対ナチ強硬に迎合することによって、全世界に
懸然たる勢力を有するユダヤ民族から、永遠の恨みを
買ってまで、旅行書類の不備とか、公安上の支障云々を
口実に、ビザを拒否しても構わないでもないだろうか？
それが果たして国益に叶うことかどうか？
苦慮の挙句、私はついに 人道主義、博愛精神第一と
いう結論を得ました。

そして私は、何も恐れることなく腕を賭して、忠実にこれを
実行し終えたと、今も後悔している。」



千歳が6,000人のビザを
発給した執業室。現在は
「杉原千歳記念館」
として公開されている。



正義と真心により
多くの人を
窮地から救った
杉原千歳の
人生と歴史

千歳が救ったユダヤ人は6,000人。
犠牲となったユダヤ人は6,000,000人。
千歳が救えたのは1,000人のうちの、本当に幸運なたった一人とい
うことだ。
ナチスドイツは政権を取ると、「ユダヤ人を迫害するための法律」を作り
第2次世界大戦開始後はさらにエスカレートしていった。

「ラジオ所有禁止」「公館からの造訪」

「医師・弁護士免許の取り消し」

「ドイツ人と結婚の禁止」「公共施設の利用禁止」

「外出制限(黄色いビビの服をつけた上着を着る)」

ユダヤ教会や店は壊され、略奪され、そしてユダヤ人は専用居住区
(ゲットー)に移され、劣悪な環境で伝染病が蔓延。飢餓と病で多くの
ユダヤ人が命を落とす。さらに1942年に開かれたワルンゼー会議で
ナチスはユダヤ人の大量虐殺を決定。毎日何千人というユダヤ人がゲッ
トーからロープバスに建てられた収容所へトラックや列車で輸送され
殺されていった。
そのもともと大きな収容所がアクウシツツツである。



新宿文化センター 案内図

JR・京王線・小田急線「新宿駅」東口 徒歩13分
西武新宿線「西武新宿駅」 徒歩13分
京王・都営新宿線「新宿3丁目駅」(C7出口) 徒歩6分
都営大江戸線「東新宿駅」(A2出口) 徒歩5分

〒160-0022 新宿区新宿6-14-1